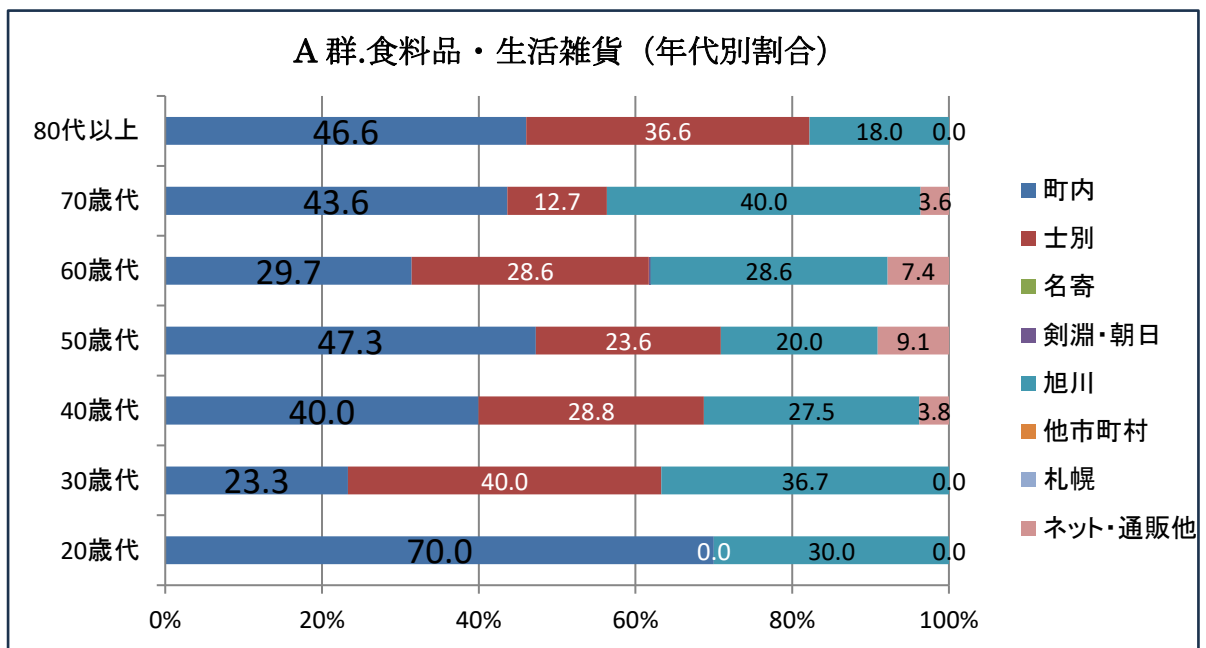
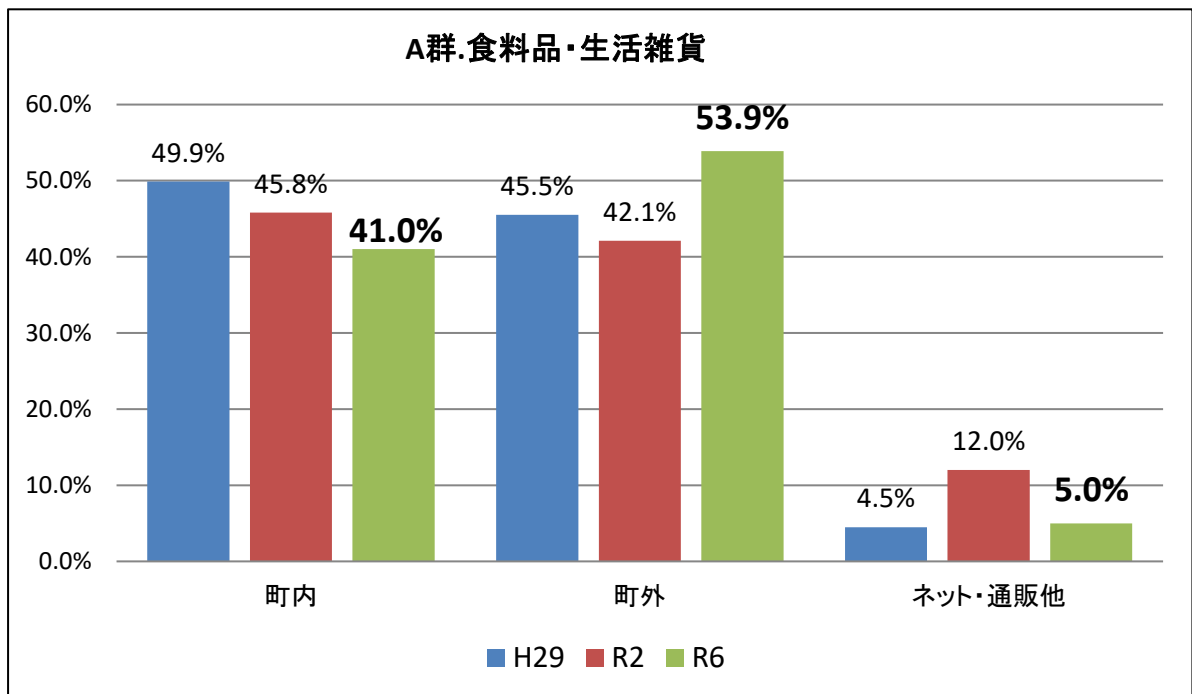


和寒町

○A群全体（食料品・生活雑貨）

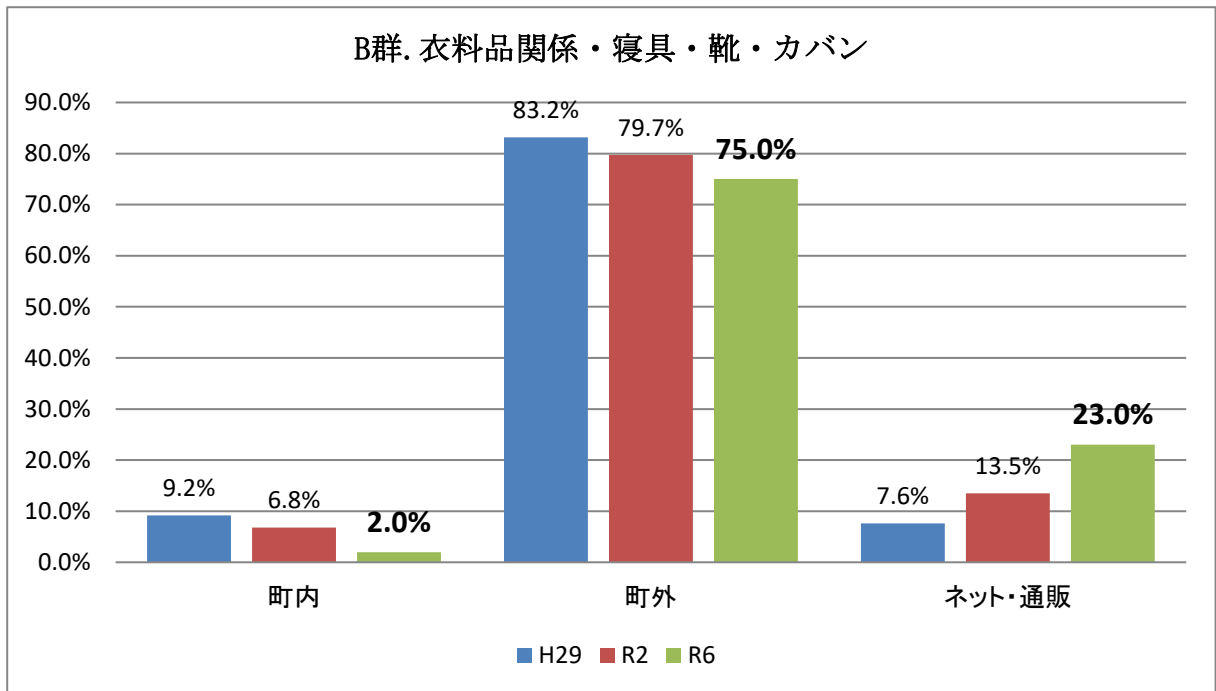
A群の商品群は、特徴として家庭の冷蔵庫的役割を担っている最も地元志向の強い商品群である。町内での購入率は41.0%で令和2年度の前回調査と比較をすると、4.8%減少している。町外への流出は、53.9%となっている。ネット・通販においては、前回調査時に比べ、7%減少している。これは新型コロナウイルスの5類移行により、外出による買い物が増加したものと推測される。

年代別にみると20歳代以上の町内での購入率が最も高く70%。全体的にみると、60歳代以上の世代の65%が町内で購入している。また20歳代以外の世代が、町内においても食糧品・生活雑貨を購入している。50歳代は生協の共同購入が9.1%と全世代の中で最も高い割合を示している。

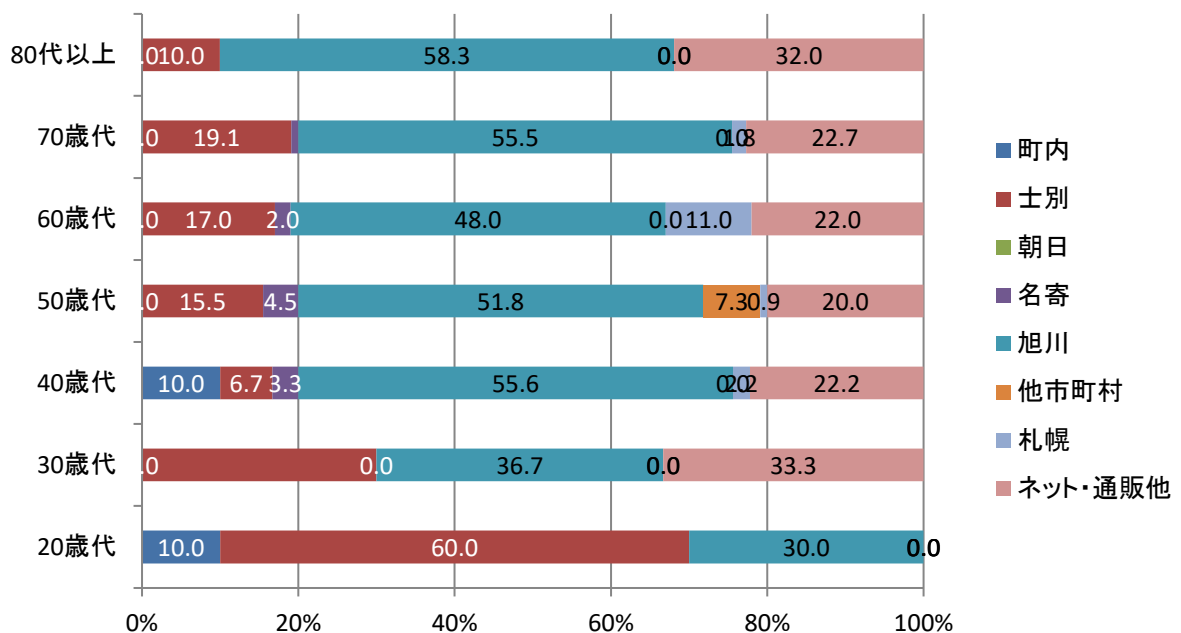


○B群全体（衣料関係・寝具、靴、カバン）

B群の商品の町内での購入率は2.0%であり、令和2年度の前回調査と比較をすると、4.8%減少している。町外への流出は、75.0%となっており、そのうち51.8%が旭川市に流出している。ネット・通販においては、前回調査時に比べ、9.5%増加しており、前回調査時は、若年層が大半を占めていたが、令和6年度では、30代が33.3%、40代が22.2%、50代が20.0%、60代が22.0%、70代が22.7%、80代32%となっており、高齢者層の購買率増加が目立つ。



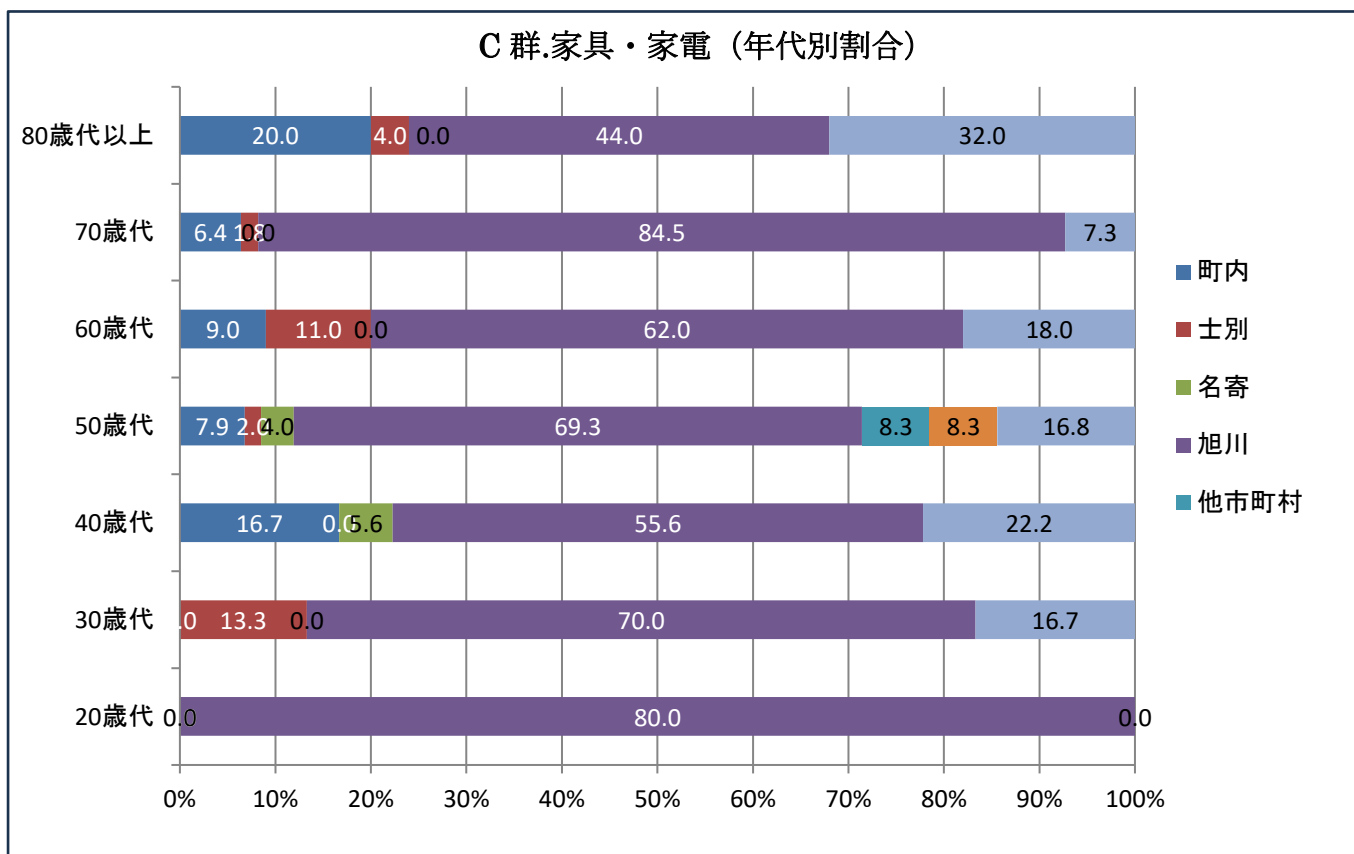
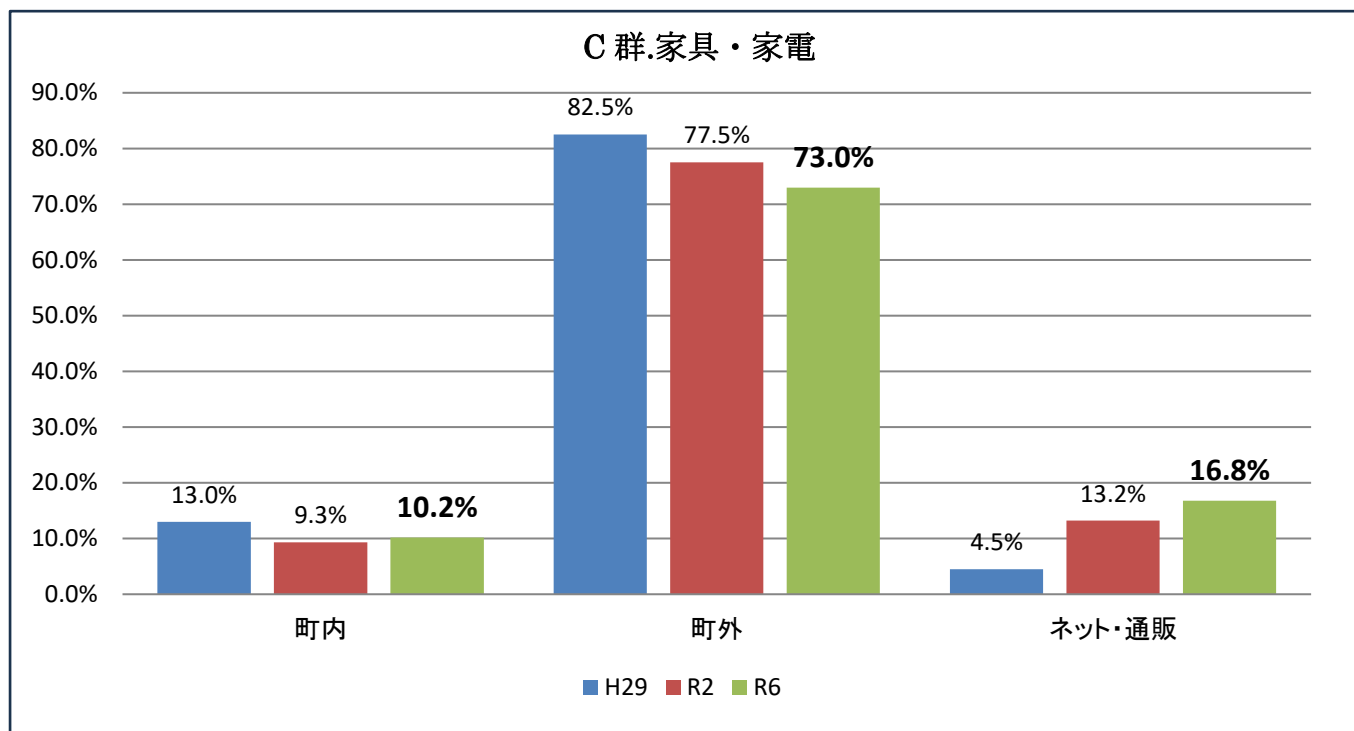
B群.衣料品関係・寝具・靴・カバン（年代別割合）



〇C 群全体（家具、家電）

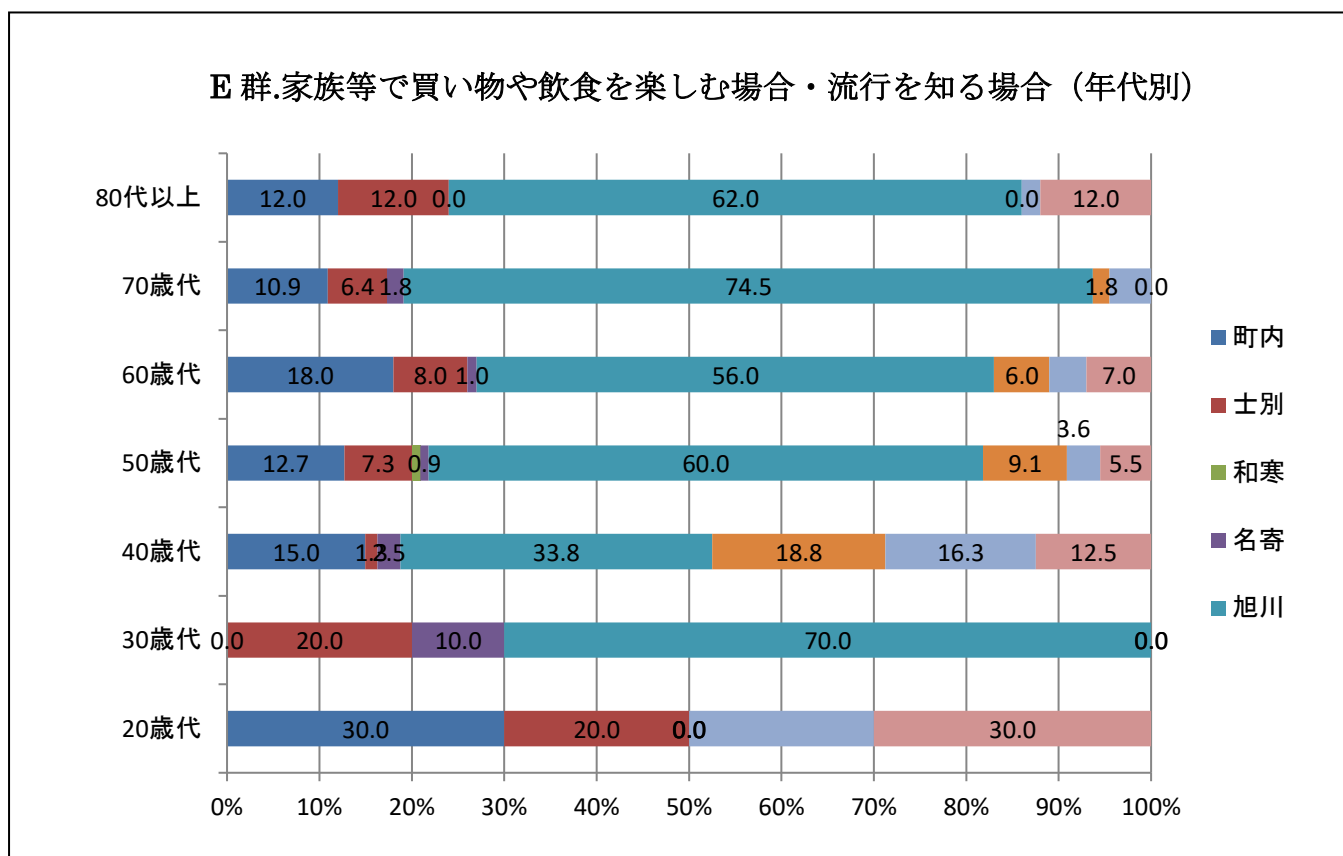
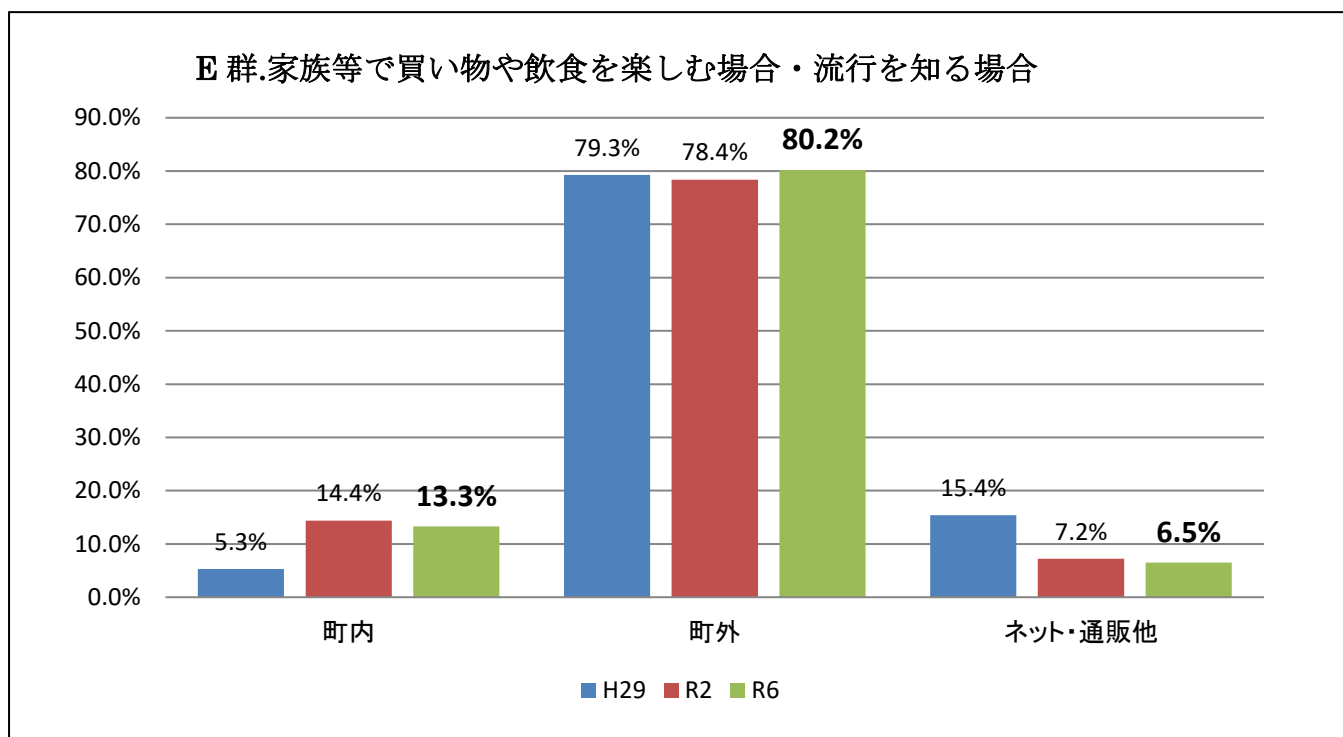
C 群の商品全体では、地元の業者が少ないこともあり、町内購入率は 10.2%。令和 2 年度比 0.9%増となっている。全体的には、旭川への流出が最も多い。ネット、通販は、令和 2 年度比 3.6%増加と伸びている。

年代別では、80 歳代が町内購入率が 20%となっており、年代別では町内購入率が最も高い。町外流出では旭川市が最も多い。



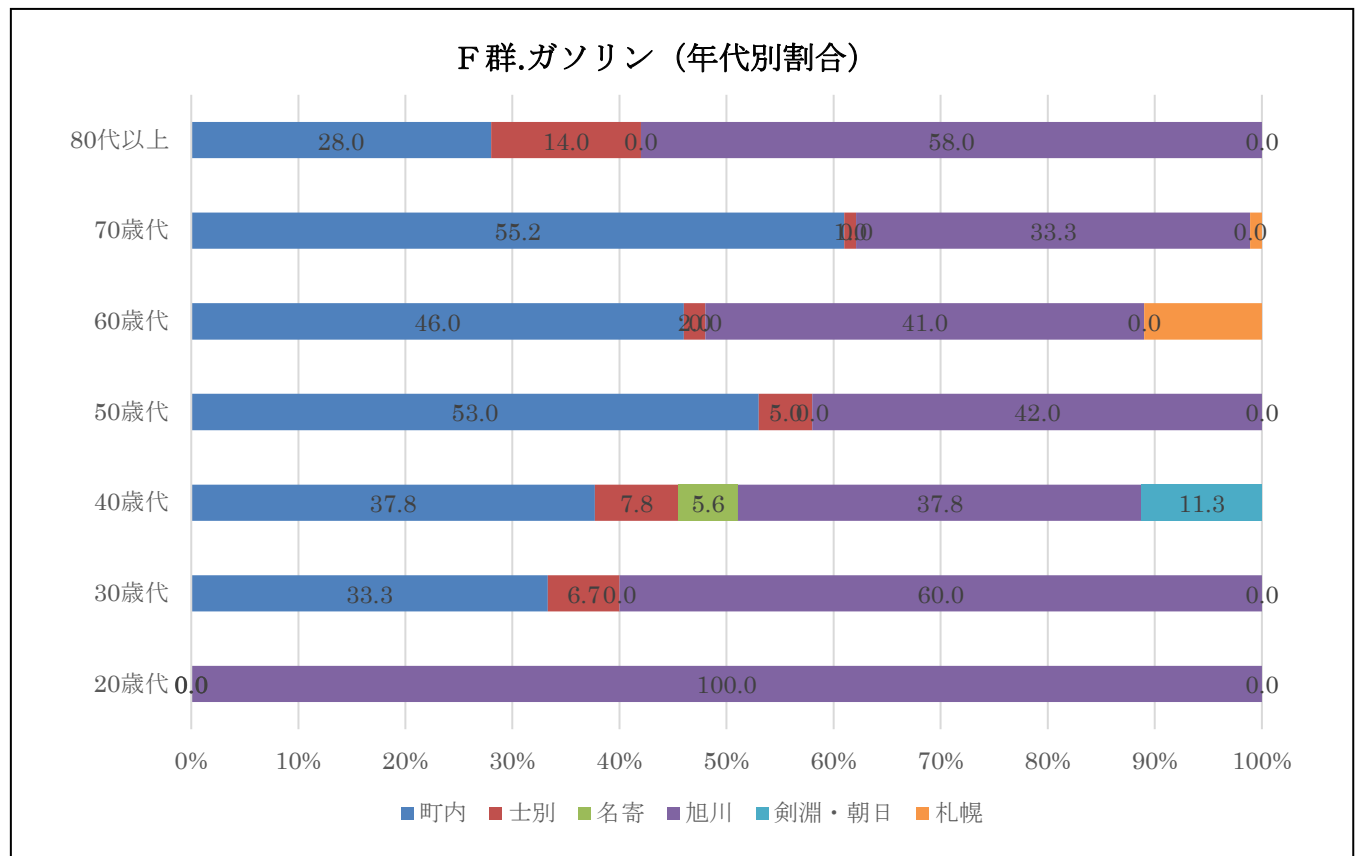
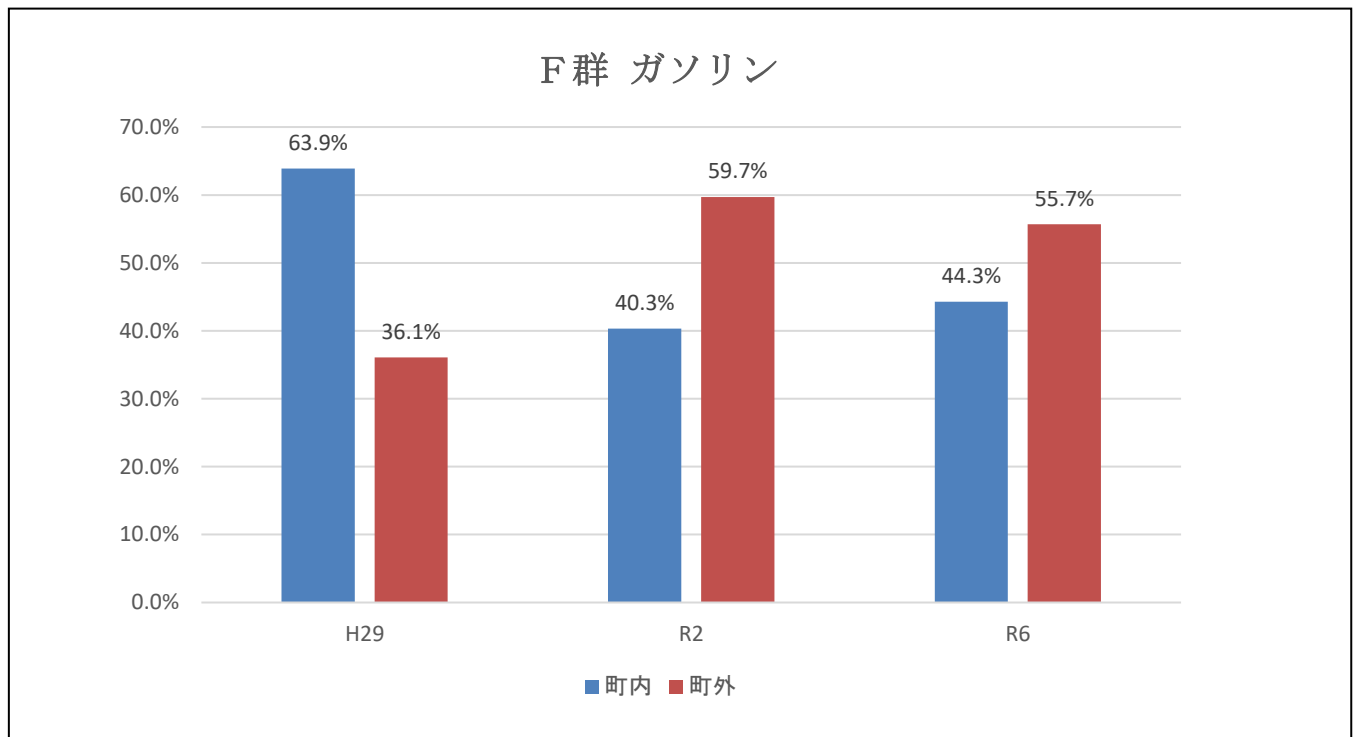
○E群（家族等で買い物や飲食を楽しむ場合・流行を知る場合）

和寒町の消費者は、E群全体で町内が13.3%、町外流出が80.2%である。令和2年度比で町内購入率が1.1%減少している。新型コロナウイルスの5類移行により外出が多くなった事が要因と考えられる。



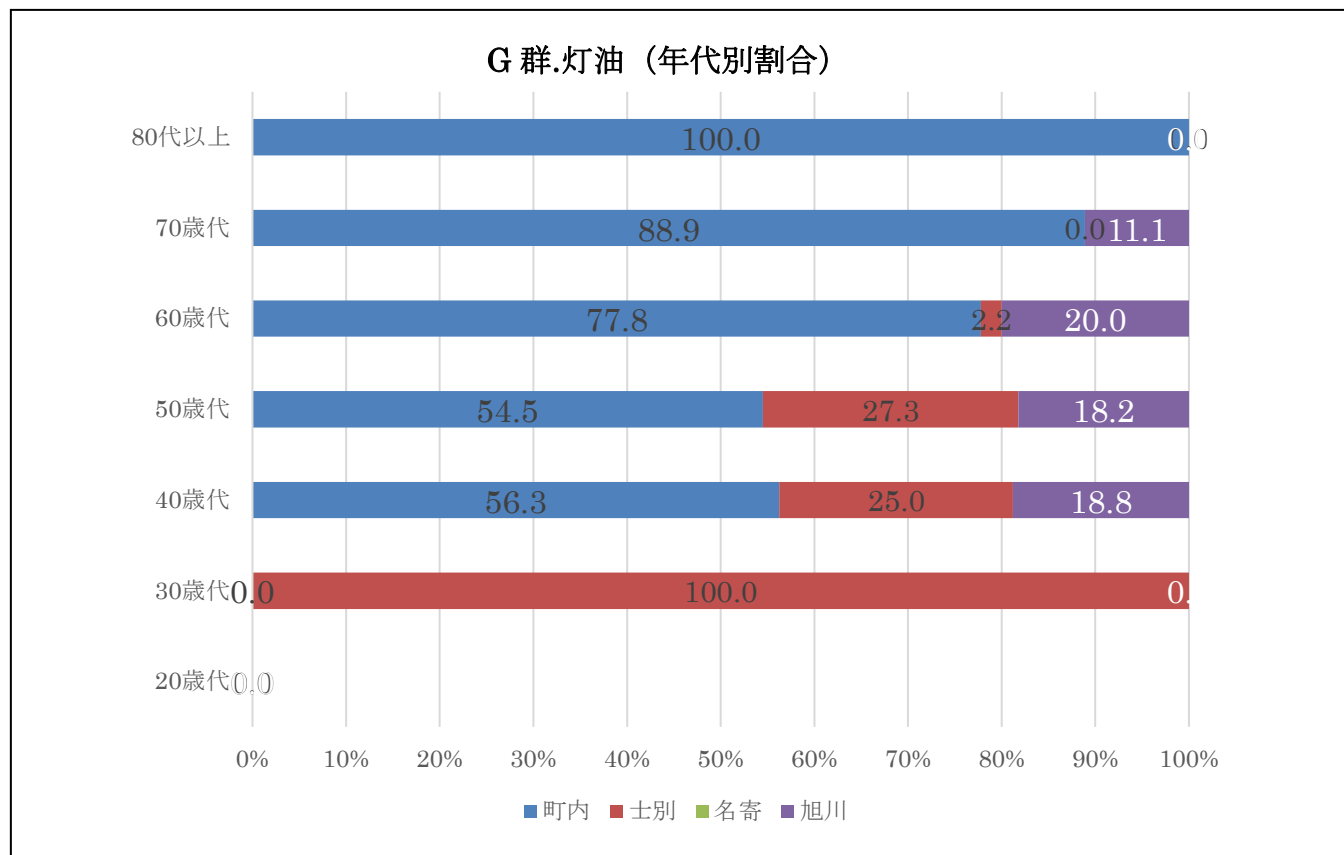
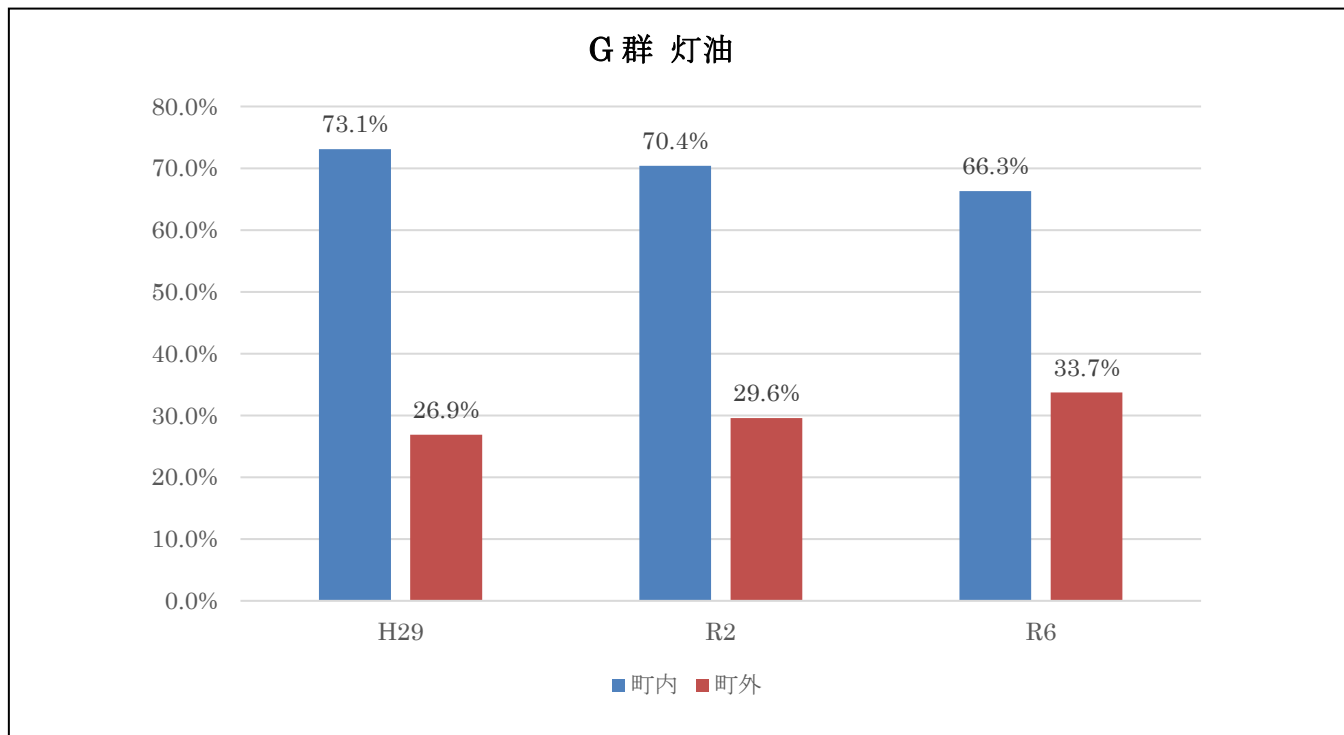
○F群（ガソリン）

F群商品であるガソリンの購入については、町内が44.3%、町外流出が55.7%である。
令和2年度比で町内購入率が4%増加している。



○G群（灯油）

G群商品であるガソリンの購入については、町内が44.3%、町外流出が55.7%である。
令和2年度比で町内購入率が4%増加している。



○全体の品目総合から見る

今回の調査は、和寒町において幅広い世代が住んでいる三笠地区を中心にランダムにアンケートを配布し実施。80件配布し、回答数は50件。回答の世代層は、40代から70代が中心となっている。

商品全体で和寒町の購買動向を見ると、町内での購入率は、25.4%である。町外での購入が64.2%であり、ネット・通販他が9.9%であることから、町外流出は74.6%になる。令和2年度と比較すると、町内購入率は2.5%減少し、町外購入率は0.5%減となっている。またネット・通販等については、2%増加している。

